



■今月の表紙

Vera C. Rubin天文台による
NGC 4365付近

解説/沼澤茂美

口径8.4m FL10.31m F1.23 LSSTカメラ
約32億画素(4K×4K×189、画素サイズ10μm)
露出30秒×1185枚のスタック&モザイク合成
(複数のフィルターによる多色合成)

撮影時間延べ10時間以上

最新のテクノロジーを備えた天文台のファーストライト画像が昨年6月23日に公開された。これはその中のおとめ座銀河団の一角25平方度の画像から、NGC 4365(左側の巨大な楕円銀河)付近約30分の範囲を拡大したものだ。最微星は25~26等級で、相対距離100億光年付近の銀河まで捉えられている。Vera C. Rubin天文台についてはp40からの記事で解説した。

■広告さくいん

コニカミノルタプラネタリウム/表2

ケンコー・トキナー/4

OMシステムズ/6

TOMITA/66

ケンコー・トキナー サービスショップ/68

シュミット/70

アイベル/74

笠井トレーディング/82~87

ウィリアム光学/102

ピクセン/114~表3

五藤光学研究所/表4

AstroArts/16、20、76、78

AstroArtsオンラインショップ/88~91

星ナビ2026年4月号

2026年3月5日発行・発売

6 星空を撮るために生まれた天体撮影専用機 **OM-3 ASTRO** 北山輝泰

10 日食カウントダウン アイスランド~スペイン皆既日食まであと5か月 石井 馨

12 漫画「ありす、宇宙までも」 **売野機子先生インタビュー** 宇津巻竜也

30



宮沢賢治生誕から130年

「よだかの星」の宙

加倉井厚夫

撮影/飯島 裕

40 世界最先端のスマート望遠鏡 **Vera C. Rubin天文台始動** 沼澤茂美

48 神話から天文学へ **アテナイの学堂** 早水 勉

第3回 自然科学のプロローグ 哲学はタレスから始まった

54 連載小説「**オリオンと猫**」第14回 星の文人、月の人 瀬名秀明
——野尻抱影と大佛次郎物語——

News Watch

5 星空の魅力を届けて一世紀 五藤光学研究所が創業100周年 中野太郎

Topics & Reports

62 天文普及をする若手が集合「わか天」観望会が4月より全国で開催 松坂 怜



OM-3 ASTRO (p.6)



インターメディアテック隕石展示(p.17)



ルービン天文台 (p.40)



渡部潤一さんが京都へ (p.72)

NEWS CLIP 石川勝也

由女のゆるゆる星空レポ 星の召すまま 17

最新宇宙像 沼澤茂美+脇屋奈々代 18

4月の星空 篠木新吾 21

4月の月と惑星の動き 24

4月の天文現象カレンダー 26

4月の注目 あさだ考房 27

新着情報 64

月刊ほんナビ 原 智子 67

アクアマリンの誌上演奏会 ミマス 69

ブラック星博士のB級天文学研究室 71

天文台マダムがゆく 拡大版 梅本真由美 72

天文学とプラネタリウム 高梨直統&平松正顕 75

天文・宇宙イベント情報 パオナビ 77

Observer's NAVI

● 変光星 高橋進 79

● 新天体・太陽系小天体 吉本勝己 80

星ナビひろば

● ネットよ今夜もありがとう 92

● 会誌・会報紹介 94

● やみくも天文同好会 藤井龍二 96

● 飲み星食い月す 96

ギャラリー応募用紙/投稿案内 97

バックナンバー・定期購読のご案内/編集後記 98

オンラインショップ運動 買う買う大作戦 99

KAGAYA通信 100

星ナビギャラリー 103

銀ノ星 四光子の記憶 飯島 裕 112

OM デジタルソリューションズからE-M1 Mark III ASTRO に続く次世代の天体撮影専用機「OM-3 ASTRO」が発売された。星空撮影のために最適化されたメーカー純正天体モデルはどのような進化をとげたのか。発売に先駆け、国内及び海外でいち早く撮影を行ったので、その描写力や機能性について、実写例とともに紹介しよう。

解説・作例：北山輝泰

提供：OM デジタルソリューションズ



天体撮影専用機 星空を撮るために生まれた

OM 二代目のアストロカメラ

OM-3 ASTRO は、OM-3 をベースとしながらも電離水素ガスが放つ輝線に敏感に反応するようチューニングされた天体撮影専用機。電離水素ガスの放つ輝線はH α 線と呼ばれ、波長656.28nm。一般的なカメラではセンサーの前に配された赤外カットフィルターでカットされてしまう波長だ。

このH α 輝線を発する赤い星雲を撮影するため、赤外カットフィルターを外す「天体改造」が施されてきた。しかし、サードパーティによる改造機はメーカーによるメンテナンスや修理を受けられない。OM-3 ASTRO は、メーカー純正の「天体撮影専用機」なので、安心して使うことができる。OM デジタルソリューションズによる天体撮影専用機は、2024年に発売されたE-M1 Mark III ASTRO に続いて2機目。天体写真にかけるメーカーの本気度がうかがえる。

NGC 3766
真珠星団

IC 2944
走るにわとり星雲

IC 2714

NGC 3532

NGC 3372
 η カリーナ星雲

IC 2602
南のプレアデス星団

η カリーナ星雲と走るにわとり星雲

南半球を訪れたならぜひ撮影したい定番の被写体「 η カリーナ星雲」とIC 2944「走るにわとり星雲」。いずれもH α 領域の輝きが豊かな輝線星雲で、赤く複雑に広がる星雲の描写は天体撮影専用機の真価が発揮される被写体だ。標準レンズで周囲の星雲を含めた広がりも捉えても、望遠で濃密な構造を切り取っても楽しい。軽量コンパクトなOM-3 ASTRO とレンズが海外遠征の負担を軽くしてくれる。OM-3 ASTRO M.ZUIKO DIGITAL ED50-200mm F2.8 IS PRO (50mm F2.8開放) ISO6400 露出25秒 ボラリエUで追尾

NGC 3114



“アルテミス世代”はどこまでも

ありす、 と 宇宙までも

うりのきこ
売野機子先生インタビュー

主人公の2人。朝日田ありす(左)と犬星類(右)
©売野機子/小学館

日本人初の女性宇宙飛行士コマンダーを目指す少女・朝日田ありすが主人公の漫画「ありす、宇宙(どこ)までも」。作中で筑波宇宙センターや種子島などが登場し、宇宙ファン的な見どころも多い本作は、主人公2人の成長やキャラクターたちの交流も大きな魅力です。マンガ大賞2025を受賞し、最新第6巻が発売されたばかりの本作について、原作者の売野機子先生に話を聞きました。

聞き手○宇津巻竜也、協力○小学館ビッグコミックスピリッツ編集部

朝日田(あさひだ)ありすは、容姿端麗で明朗快活な女の子。しかし、人知れず大きな苦悩を抱えています。ありすにバイリンガル教育を施していた両親が交通事故で亡くなったのです。「セミリンガル(※1)」な状態になった彼女は、周りの会話についていけず、自分の感情すらうまく言語化できずに、悶々とした日々を送っています。

そんなありすがある日、博覧強記で孤高の少年、犬星類(いぬぼしるい)と出会うことで宇宙飛行士を目指すことになります。様々な経験を経てありすと類は成長していきます。

——なぜ、主人公・ありすが宇宙飛行士を目指す物語にしたのですか？

売野 主人公は構想段階からセミリンガルという設定でした。そんな状況にいる主人公が目指す「一番難しい目標」として選んだのが宇宙飛行士です。

宇宙飛行士は、まずなること自体が難しい職業です。それに加えて、日本語だけでなく英語やその他の言語でもコミュニケーションをしないとイケない。

——宇宙飛行士は、セミリンガルでなくても目指すのは大変ですよ。

売野 漫画では主人公の人生を面白く描く手法として「最も遠い目標」を設定します。宇宙は物理的にも遠く、また、ただでさえ難しい宇宙飛行士の試験はセミリンガルの現状からも非常に遠い夢に思えます。それだけの夢へどうやって辿り着くのか、どう乗り越えていくのか……子供から大人まで憧れるこの職業は、主人公・ありすにとって目指す価値のある美しい夢だと思いました。

——本作はJAXA筑波宇宙センターや種子島などの描写がすごく正確です。取材はたくさんされたのでしょうか？

売野 ありがとうございます。実は現地の取材はほとんど叶っていません。筑波には一般の見学者として伺いました。あとは本や映像資料などを組み合わせて、ある程度想像して描いています。

種子島にも、原稿のスケジュールとの兼ね合いで行くことができず……。アメリカ編の1話(単行本4巻収録)を描いた段階で「さすがに取材なしでは厳しい」ということで、スペース・ルナ・キャンプの舞台になったハンツビル(アメリカ・アラバマ州)に行くことができました。

ハンツビルで実際に行われているスペースキャンプの話は、日本宇宙少年団

※1 セミリンガル：2つの言語環境で育ちながら、どちらの言語も年齢相応の学力レベルに達していない状態を表す用語。言語による認知能力や思考能力の発達が遅れる可能性があり、深い思考や学習に支障をきたすことがあるとされる。ダブルリミテッドとも呼ばれる。

で話を伺ったのですが、上垣内茂樹さん（日本宇宙少年団理事）（※2）から元NASAの技術者をご紹介いただき、その方に現地の案内をしていただきました。

—— 巻末に協力として名前が出てくる上垣内さんですね。

売野 日本宇宙少年団では、連載開始前に、上垣内さんの他に柳川孝二さん（元JAXA）や山崎直子さん（元宇宙飛行士）（※3）など、宇宙飛行士のことを取材できる方をご紹介いただいたりと、本当に膨大な情報を教えていただきました。その時に監修を上垣内さんに引き受けていただきました。上垣内さんには知識的な部分で全面的なバックアップをお願いしていて、こういう状況の場合はどうなりますかとか、ここに行けば何がありますかとか、とにかく何でも質問して、丁寧に教えてくださいました。ネーム（漫画の下書き）もご覧いただいて、間違っているところはないか確認してもらっています。

—— ご自身でいろいろな本や資料などを集めて描かれているとのことですが、どんな本が参考になりましたか？

売野 そうですね。例えばNHKのドキュメンタリーをまとめた『ドキュメント 宇宙飛行士選抜試験』ですね。「ありす、宇宙までも」の構想段階にこの本を読んだことで、宇宙飛行士を目指す話にしよう、と決めるきっかけになりました。



「スペースドーム」内でのシーン（右、第1巻収録）。筑波宇宙センター内にあり、実際に宇宙飛行士の訓練に使用されている「閉鎖環境適応訓練施設」も作中に登場する。



筑波宇宙センターの展示館「スペースドーム」（上）を訪れるありすと類（下、第1巻収録）。



海は葡萄酒色ではないことを!!!

我々の文化は、

©売野機子/小学館

教えよう。



宇宙の服の色。

©売野機子/小学館

実は、宇宙飛行士というアイデアは、最初は編集部から難色を示されていたのですが、私はどうしても宇宙飛行士が良いなど。なので、宇宙飛行士にしたい理由を編集部に説明する必要がありました。その時に図書館の司書さんに宇宙飛行士に関する資料をいっぱい出してもらった中の一冊が『ドキュメント 宇宙飛行士選抜試験』です。

もう一冊は立花隆さんの『宇宙からの帰還』ですね。ビッグコミックスピリッツの編集長から「名著だから読む方がいいよ」と言われて。かっつているいろいろな宇宙飛行士の方や宇宙開発の関係者がこの本に影響されたのが本当によくわかる、宇宙飛行士という職業へのロマンが感じられる本だと思います。

※2 上垣内茂樹：公益財団法人 日本宇宙少年団 理事。元JAXA宇宙飛行士・運用管制ユニット長。「ありす、宇宙までも」では制作に協力。※3 柳川孝二：Koshoya2020代表。元JAXA有人宇宙環境利用ミッション本部 有人宇宙技術部 部長。著書に『宇宙飛行士という仕事』（中央公論新社）等、宇宙飛行士に関する本を執筆。山崎直子：元JAXA宇宙飛行士。公益財団法人 日本宇宙少年団 理事長。内閣府宇宙政策委員会委員。

今年生誕から130年となる宮沢賢治。

独自の世界観を持つ作家・詩人で、現在も愛されています。

「銀河鉄道の夜」だけでなく、

さまざまな作品において星々が登場します。

今回紹介するのは、冬から春の星たちが登場する「よだかの星」。

宮沢賢治はこの作品にどのような思いを込めたのか。

そして、孤独な鳥・よだかはどんな星空を見上げたのでしょうか。



宮沢賢治生誕から130年

「よだかの星」の宙そら

解説◎加倉井厚夫

写真◎KAGAYA 飯島裕

加倉井厚夫

宮沢賢治学会イーハトーブセンター会員。天文活動は、彗星観測から山岳天体写真の撮影まで。宮沢賢治関係の博物館展示及びプラネタリウム番組監修のほか、文学研究書への執筆も多数、第35回宮沢賢治賞受賞。

宮沢賢治(1896-1933)

詩人・童話作家。幼少期より科学に深い関心を持ち、作中にも動植物、鉱物、天体などの科学用語が登場する。出身地である岩手県をモチーフにした架空の地名「イーハトーブ」や独自のオノマトペ（擬音）など独特の世界観を持ち、現在も愛好家が多い。代表作は「銀河鉄道の夜」「雨ニモマケズ」「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」など。

イラスト／吉原宏平

宮沢賢治には、文学作品の創作において極めてユニークな天文への嗜好があります。童話だけでも「銀河鉄道の夜」「双子の星」「よだかの星」「シグナルとシグナレス」「鳥の北斗七星」「土神ときつね」など、星や星座を取り入れた作品の数は圧倒的で、近代文学作家では特筆すべき存在です。

中でも「よだかの星」には、不条理ないじめ、他の命と引き換えに生きる宿命、救いようのない境遇から解放され星になる意味など、いくつかのテーマが盛り込まれていますが、天文的な描写を交えた場面では、擬人化された天体（太陽や星）が、主人公よだかの悲しい願いを拒絶する相手として登場しており、よだかの孤独を際立たせています。

天文の知識に加え、文学研究的視点にも触れながら、作品のさまざまな創作の背景やその魅力を読み解いてみたいと思います。

「よだかの星」執筆の時期

若き日の賢治は、盛岡中学校から盛岡高等農林学校（現在の岩手大学）農学科第二部に進学、卒業後には研究生として残り、地元の土性調査に携わっていました。1918（大正7）年のことです。この頃、童話創作も始めていました。

2年ほどの研究生の期間を終え1920（大正9）年5月、古着商・質屋を営む花巻の実家で家業に従事することになります。

しかし、家業に馴染めない賢治は、日蓮宗に傾倒し、ついには信仰団体国柱会に入会します。そして翌1921（大正10）年1月23日の夕刻、東京鷺谷にある国柱会館で奉仕活動を行うため突然の上京を決心しました。

在京中には、本郷菊坂町に下宿し、東京帝国大学赤門前の小さな出版所で働きながら、数多くの童話を執筆していました。国柱会で交流のあった高知尾智耀（1883～1976年）には、法華経の教えに基づく文学創作を奨められていました。

「よだかの星」の詳細な執筆時期は明らかになっていませんが、この1921（大正10）年頃の作品とされています。当時の賢治はまだ20代の半ば、将来や信仰のことで悩み多き時期でした。



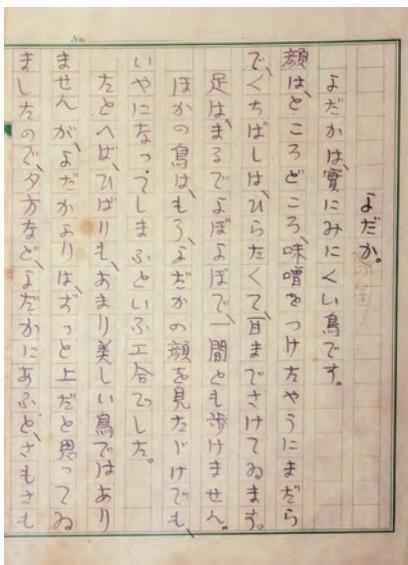
写真1 賢治上京100年後の花巻駅

1921年1月23日、質屋の店番をしながら「さあもう今だ。今夜だ。時計を見たら四時半です。汽車は五時十二分です。」（1921年1月30日、関徳弥あて〔書簡185〕）と、突然の上京の決心をして、花巻駅へと急ぎました。写真は、賢治を乗せた汽車が花巻駅を発つ午後5時12分からちょうど100年後（2021年1月23日17時12分）の花巻駅です。宵閉迫る時刻の出京でした。

写真2 「よだかの星」の絵本

童話「よだかの星」は、多数の絵本作家により取り上げられている宮沢賢治の人気作品の一つです。写真中のリストは、以下のとおり（刊行年順）。

中村道雄『日本の童話名作選 よだかの星』（偕成社）／黒井健ほか『宮沢賢治絵本童話集② よだかの星』（くもん出版）／井堂雅夫『The Nighthawk Star』（サンマーク）／さざめやゆき『よだかの星』（ミキハウス）／国松俊英・館野鴻『宮沢賢治の鳥』（岩崎書店）／浅野薫『よだかの星』（文芸社）／三永ワヲ『よだかの星』（文研出版）



草稿（原稿）と題名

「よだかの星」の草稿は、1枚の洋紙表紙と14枚の原稿用紙が残されています。ブルーブラックインクにより清書され推敲の後、やや青いブルーブラックインクで手入れが行われたものが本文となっています。

本作品について1枚の洋紙表紙には、一度「よだか」と書かれ、それを消して

写真3 「よだかの星」草稿第1葉

当初原稿用紙冒頭に書かれた題名は「よだか。」でしたが、鉛筆で「の星」が加筆されています。（資料提供／宮沢賢治記念館）

「ぶとしぎ。」（別の鳥の名前）とする手入れが認められます。生前に構想された「花鳥童話集」のメモでも「ぶとしぎ（ぶとしぎ）」として作品リストに加えられています。これはまったく「よだか」とは別の鳥の名前で「オオジギ」の方言名です。

初出は、随筆雑誌「文体」1934年4月号（文体社）、題名は「ぶとしぎ」で、続く『宮沢賢治全集第3巻』（文圃堂書店1934.10）では「ぶとしぎ」と題され掲載されていました。賢治の没後早い時期に発表された作品です。

みにくい鳥「よだか」

よだかは、鳥の名前「ヨタカ（夜鷹）」に由来しています。鳥類ではヨタカ目ヨタカ科に分類され、作中にもあるとおり、夜行性で飛翔しながら昆虫などを捕食します。平地から低山地の森林、草原などに生息する野鳥です（33ページ写真4）。

世界最大最先端のスマート望遠鏡

Vera C. Rubin 天文台始動

ベラ・C・ルービン天文台の口径8.4m F1.23という光学系に直径64cm 32億画素のCCDを装備した最先端の観測機器は、圧倒的な捜天能力に加え、10年間の継続観測によって宇宙誕生の謎、暗黒エネルギーや暗黒物質の謎に迫ることができるという。

解説◎ 沼澤茂美 (日本プラネタリウムラボラトリー)



Vera Cooper Rubin

アメリカの天文学者(1928-2016)。渦巻銀河の円盤の回転速度が中心部と周辺部で変わりが無いことを発見し、目に見えない大量の重力源「ダークマター(暗黒物質)」の存在を決定的に示す証拠を提供したことで知られる。また、女性天文学者の権利と地位向上に生涯をかけた活動家でもあった。この天文台の最大の科学目標の一つが、弱い重力レンズ効果を使った暗黒物質の分布マッピングと暗黒エネルギーの研究であり、敬意を持って「ルービン」の名前を冠することになった。この命名により、米国史上初めて女性の名を冠した国立天文台が誕生した(2020年1月の公式改名時)。

画像: NOIRLab/NSF/AURA

「Vera C. Rubin (ベラ・C・ルービン) 天文台」の基本概要

正式名称	NSF-DOE Vera C. Rubin Observatory (米国立科学財団+米国エネルギー省共同運営)
所在地	チリ北部、Cerro Pachón (セロ・パチオン) 山頂 (標高約2682m)
主鏡口径	8.4m (有効視野が非常に広い特殊な3枚鏡光学系)
カメラ	約32億画素 視野直径約9.6平方度 (満月の約40倍の面積を一度に撮影可能)
主な観測波長	可視光~近赤外 (320 ~ 1060 nm)
最大のミッション	Legacy Survey of Space and Time (時空間レガシーサーベイ: LSST)

ルービン天文台公式サイト <https://rubinobservatory.org/>



Vera C. Rubin 天文台とおとめ座銀河団の一角

前景はチリ北部、Cerro Pachón (セロ・パチオン) 山頂に建つ Rubin 天文台の全景、背景はファーストライトとして公開されたおとめ座銀河団の一部を拡大したものだ。詳しくは47ページの画像を参照。

世界最大のデジタルカメラ

昨年4月、「総画素数32億画素! 世界最大のデジタルカメラ」というニュースがネット上に流れ、話題になった。一般のデジタルカメラ情報サイトや動画サイトで盛んに紹介されていたので、いったいどのような「カメラ」なのかと思ったのだが、これこそが、チリに建設された最先端の大型天文台 Vera C. Rubin 天文台（以下ルービン天文

台）にインストールされる「LSST (Legacy Survey of Space and Time) カメラ」のことだった。

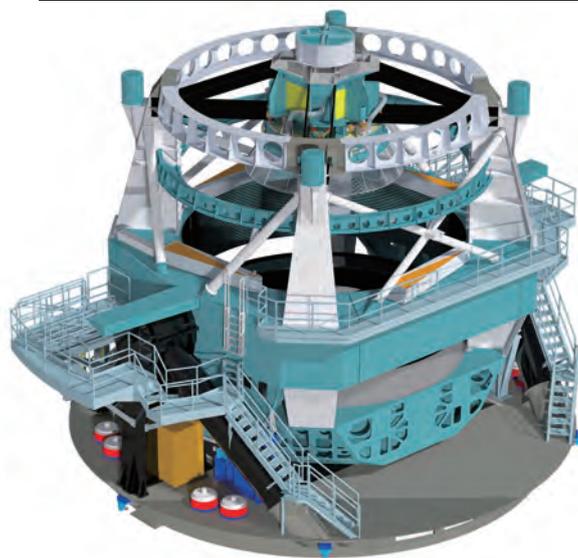
ルービン天文台

ルービン天文台はチリのコキンボ州の標高2682mのセロ・パチョン山頂に建設され、近くにはジェミニ南望遠鏡がある。チリ中部コキンボ州のラ・セレナから東に100km地点である。本格的な建設は2014年に開

始され、2024年にLSSTカメラが完成、2025年4月15日に初エンジニアリング観測が行われ、2025年6月23日に観測画像が初公開された。総工費は約8億1千万ドル（約1260億円）といわれており、2000万ドル（約31億円）を寄付したチャールズ・シモニーにちなんで望遠鏡本体は「シモニー・サーベイ望遠鏡」と名付けられている。ちなみに、ビル・ゲイツも1000万ドル（約15億5千万円）寄付している。



画像：RubinObs/NOIRLab/NSF/AURA/B. Quint



シモニー・サーベイ望遠鏡

ルービン天文台の口径8.4mの望遠鏡の3Dレンダリング画像。中央部にLSSTカメラがインストールされた状態を示す。光学系はF1.23と明るく、望遠鏡全体は鏡筒のひじょうに短い形状をしている。画像：Rubin Observatory/NSF/AURA

ルービン天文台と南天の天の川

天文台の上に天の川中心が横たわっているようです。ルービン天文台は「時空間レガシーサーベイ (LSST)」を実施する目的で建設された。この掃天観測では10年間にわたり、南天の可視領域全体を繰り返し撮影し、進化する宇宙の新たな姿を捉える。LSSTの4つの研究目標のうちの一つが天の川銀河の構造と形成に関する疑問を解明するためのマッピング観測だ。

主鏡の搬入 口径8.4mの主鏡と三次鏡は2019年5月7日にチリのコキンボ港に到着し、その後数日間かけてLSST山頂施設棟へ輸送、5月11日に山頂へ到着した。山頂の中央にジェミニ南望遠鏡のドームが見える。画像：Rubin Observatory/NOIRLab/NSF/AURA



ミュトス アストロノミア
神話から天文学へ

アテナイの学堂

第 3 回

自然科学のプロローグ
哲学はタレスから始まった

今から2600年前、
古代ギリシアのタレスは、万物の根源は「水」と述べました。
これが、現代科学にも通じる思想の大転換でした。
タレスをはじめとするミレトス派思想と、
この影響について歴史をたどってみます。



ナビゲーター 早水 勉

(はやみず つとむ)

佐賀市星空学習館

星食観測・研究をライフワークとして活動し、日本天文学会天文功労賞、国際表彰「ホーマー・ダボール賞」を受賞。古代ギリシアを中心とする天文学史にも造詣が深く、連載「エーゲ海の風」をまとめたムック「星のギリシア神話研究 星座を彩る物語と文化」を2024年12月に出版。

ウェブサイト「HAL星研」

<http://hal-astro-lab.com/history.html>

図1 タレスが予言したBC585年5月28日の日食を描いた木版画
(フランス/Georges Rochegrosse画 1892年、Photoshopにて着色)。



図2 古代ギリシア周辺におけるイオニアとミレトスの位置

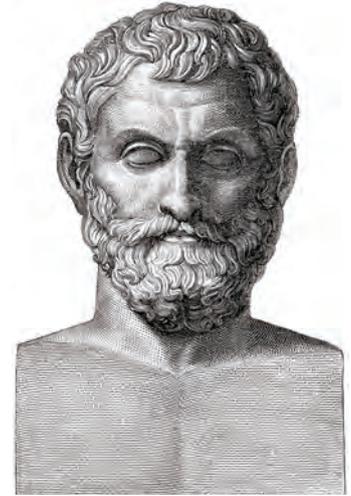


図3 4世紀に造られた胸像を模写したタレスの肖像 (Wilhelm Meyer)

ギリシア哲学のはじまりは ミレトスのタレス

大哲学者アリストテレス^{※1}は、「哲学はミレトスのタレスから始まる」と記しました。続けて「タレスが哲学を始めた人であり、水が原理であると言った」と述べています。

タレス (Thales BC585年ごろ) は、現在の東部エーゲ海に面するトルコ南西部のイオニア地方の商業都市ミレトスで活躍しました (図2)。古代ギリシアというとアテネやペロポネソス半島のスパルタ等エーゲ海西部を想像しがちですが、古代ギリシアの文化圏はエーゲ海東部のトルコ沿岸地域からイタリア南部地域まで及んでいました。イオニアは、古代ギリシアにおいて政治的には辺境の地域ですが、メソポタミアやエジプトなどのオリエントと地理的に近く、これら先進文明地域の知識が最初にもたらされました。

古代文明が発祥したメソポタミア、エジプトでは数学や天文学の重要な発展がなされたものの、これらの知識も自然も神の支配とする思想から抜け出すことはありませんでした。後世の評価によると、タレスの思想

の最も肝要な点は、神を必要とせずに自然を理解しようとする態度にあります。神話 (ミュトス) からロゴス^{※2}への飛躍です。

いつの時代でも、ひとつの突破口を切っ掛けに、大きな潮流が続けざまに起こることが珍しくありません。イオニアでは、タレスを先陣にアナクシマンドロス、アナクシメネス等の賢人が登場し、彼らの思想はミレトス派とかイオニア派と呼ばれます。ミレトス派思想の登場は、人類思想史におけるパラダイムシフトだったのです。

ミレトス派の宇宙観

(1) タレス

タレスの活躍した時期で確からしい出来事には、BC585年5月28日に起こった日食を予言したという記録があります (図1、図4)。また、他の後世の文献^{※3}に記される古代オリンピック祭年の記述を総合して、第39回オリンピック (BC624年) ごろに誕生し、第58回オリンピック (BC546年) ごろに没したとするのが定説です。この説によるとタレスは78歳で没したことになります。

タレスが書いた文献は残っていませんし、

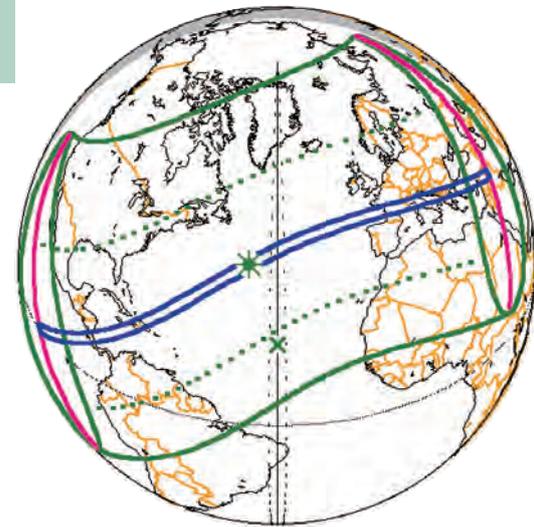


図4 タレスが予言したとされるBC585年5月28日の皆既日食マップ (NASA Eclipse websiteより)。現代のシミュレーションによると、ミレトスでは日没直前に食の最大となっていた。

そもそも一冊の書物も著わさなかったとも考えられています。タレスは当時であっても著名な人物であり、いわゆるギリシア七賢人^{※4}のひとりにも数えられていました。日食の予言は、彼が日食の原理を理解していたわけではなく、古代メソポタミアの天文観測にもとづいた日食の周期に関する知識を用いたのではないかと考えられます。古代歴史家ヘロドトスによると、この日食はちょうど小アジアで勃発していたリュディアとメディアの戦争の最中で、タレスの予言した日食が実際に起こったことが理由で戦争は終結しました。この歴史的な事件によってタレスの名声は不動となり民衆の尊敬を集めました。

タレスの唱える根源的な思想は「万物の

※1 アリストテレス (Aristoteles BC384年～BC322年) …古代ギリシア最大の知の巨人とされる哲学者、自然科学者。現代にしてなお「万学の祖」と称される。

※2 ログス…合理的に説明づける体系の構築を目指すという状態

※3 ディオゲネス・ラエルティオス (AD3世紀) が著した『ギリシア哲学者列伝』

※4 ギリシア七賢人…BC6世紀～BC7世紀ごろの古代ギリシアの賢人。伝承によって異なるが、プラトンの記す7人は、ソロン、タレス、キロン、ピアス、クレオプロス、ピッタコス、ミュソソ。多くは政治家で、哲学者とされるのはタレスのみ。